

コマツナ産地力の維持

対象集団 JA 東京スマイル管内コマツナ生産者群（重点対象：33人）

・作付延べ面積：234.3ha ・生産量：4101 t

重点対象は、江戸川区内でコマツナ生産を行う認定農業者とし、管内への波及をねらう。

地域の紹介

区部東部は、東京都の東端に位置し、江戸川と荒川に挟まれたデルタ地帯にあり、住宅地に農地が点在する都市地域である。当地域が発祥のコマツナは、東京都の農業産出額の中で1位の品目であり、江戸川区を中心に周年栽培、市場出荷が行われている。出荷先は都内中央卸売市場が中心で、出荷は個選個販であり、出荷市場は各生産者が選択している。

課題の設定・目標

1 設定理由

区部東部は都内最大のコマツナ産地であるが、作付面積の減少により、生産量はほぼ頭打ちとなっている。市場単価の低迷が続き、近年は高単価で安定した需要がある給食向けの出荷も行われている。また、夏期の猛暑や病虫害による品質や生産量の低下が問題となっている。

そこで、市場出荷向け生産量の維持と産地イメージの向上を支援するとともに、給食向け契約栽培における生産安定を後押しするため、普及指導課題に設定した。

2 目標

コマツナの産地力を維持するため、平成32年度までに、次の目標の達成をめざす。

(1) 給食出荷コマツナの栽培体系の確立

- ・給食出荷向け品種の選定（4品種）
- ・防除モデルの確立（1地区）

(2) 市場出荷コマツナの産地力維持

- ・全国平均並み市場単価の実現
- ・夏期高温対策技術の導入（2種類）
- ・効率的な収穫作業体系の確立
- ・とうきょう食材利用店出荷者5名増

活動の体制

東部班を中心に、JA 東京スマイルと連携して活動している。技術情報については農業振興事務所技術総合調整担当、農林総合研究センターから提供を受けている。

活動の内容

1 給食出荷コマツナの栽培体系の確立

使用品種を調査し、品種特性の把握と生産不安定な夏むけ品種を絞り込んだ。防除モデルの確立に向けて、防除事例を調査し、農薬のローテーション使用の講習を実施した。

2 市場出荷コマツナの産地力維持

JA 東京スマイルと共同で生産履歴補助シート（登録農薬早見表）を最新情報に更新した。また、市場別の荷姿把握のため、調査項目を検討した。夏期の高温による生育遅延、品質低下対策として、遮光栽培の展示ほを設置し、効果を検討した。

産地イメージ向上のため、主要な生産者にとうきょう食材利用店制度、とうきょう特産食材商談交流会を紹介した。

成 果

1 給食出荷コマツナの栽培体系の確立

夏向け品種は、従来の「いなむら」に代わり、「春のセンバツ、SC4-022」の栽培が急増している。東京都種苗会の品種コンクール結果や種苗会社からの情報も併せて考慮し、この2品種を夏期の有望品種に選定した。

学校側からは病虫害被害や異物混入に関する要望が非常に強く、市場向け以上に防除を徹底する必要があることがわかった。

2 市場出荷コマツナの産地力維持

市場出荷と給食出荷とで農薬散布の間隔は同等だが、市場出荷の方が生育日数は短いため散布回数が少ない。防除が遅れないよう、被害の早期発見や防除水準の見極めの徹底が必要である。概ね1束500gで出荷されているが、草丈・ボリュームについては市場毎に傾向がある。遮光資材による軽度遮光により生理障害は減ったが、生育は徒長ぎみで収量低下が見られた。

とうきょう食材利用店制度の紹介により、1名の新規出荷につながった。食材商談交流会に若手生産者1名が参加し、仲卸業者や飲食店などへの新たな販売が開始された。



夏期コマツナコンクールでの生育状況
(左：いなむら、右：春のセンバツ)



軽度遮光資材を用いた高温対策検討

残された課題

1 給食出荷コマツナの栽培体系の確立

とう立ちや収量が問題となる冬の品種絞り込みも行う。防除実態と被害程度の検証が必要であり、出荷先（給食向け、市場出荷向け）に応じた防除体系の確立を目指す。

2 市場出荷コマツナの産地力維持

優良農家の荷姿事例を蓄積し、各部会に提供することで、品質向上を目指す。高温対策を再検討するとともに、作業者の暑熱対策も併せて検討していく。また、担い手の減少、高齢化に対応し、作業体系の見直し等を含めた省力化を検討していく。

産地イメージ向上については、オリンピック関連への出荷に意欲的な生産者も現れており、今後、GAP制度の周知・推進についても取り組んでいく必要がある。